

毛髪用薬(発毛, 養毛, ふけ, かゆみ止め用薬等)

製品群No. 60

資料4-39

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C 重篤な副作用のおそれ		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 濫用のおそれ	E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)			H スイッチ化等に伴う使用環境の変化	用法用量	効能効果
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性	適応禁忌	慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)	症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用方法(誤使用のおそれ)			スイッチ化等に伴う使用環境の変化		
			併用禁忌(他剤との併用に より重大な問題 が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの	薬理・毒性に 基づくもの	特異体質・ア レルギー等 によるもの						使用量に上 限があるもの	過量使用・誤使 用のおそれ	長期使用に よる健康被害 のおそれ			
発毛促進成分	塩化カルプロニウム	プロシジン液	塩化カルプロニウム液は、本剤の局所血管拡張作用を円形脱毛症をはじめ各種脱毛症における脱毛防止、発毛促進および乾性脂漏、尋常性白斑の治療に应用した局所用薬剤である。また、発毛促進作用を有し、機能低下状態にある毛囊に作用して、発毛を促進する。				0.1~5%未満(アセチルコリン様作用)	0.1~5%未満(過敏症)				・本剤の成分または他の薬物に対し過敏症の既往歴 ・高齢者			・塗布直後に全身発汗、それに伴う悪寒、戦慄、嘔気、嘔吐等があらわれることがある。 ・投与時：本剤は眼に入るとしみるので、眼に入れないように注意すること。 ・投与部位：外用にのみ使用すること。 ・湯あがりのあと等に使用すると副作用が強くとられる傾向がある。			①②③日2~3回適量を患部に塗布、あるいは被髪部全体にふりかけ軽くマッサージする。 ③1日3~4回適量を患部に塗布する。 ・高齢者は減量するなど注意すること。	①下記のごとき疾患における脱毛防止ならびに発毛促進 円形脱毛症(多発性円形脱毛症を含む) 悪性脱毛症、びまん性脱毛症、粗糠性脱毛症、壮年性脱毛症、症候性脱毛症など ②乾性脂漏 ③尋常性白斑
	ミノキシジル	医療用にはなし																	
抗ヒスタミン成分	塩酸ジフェンヒドラミン	外用はなし	アレルギーをジフェンヒドラミンはあり一レスタミンコーワ軟膏					頻度不明(過敏症)					炎症症状が強い浸出性の皮膚炎：適切な外用剤の使用でその炎症が軽減後もかゆみが残る場合に使用する。		使用部位：眼のまわりに使用しない。			通常、症状により適量を1日数回、患部に塗布または塗擦する。	尋麻疹、湿疹、小児ストロフルス、皮膚そう痒症、虫さされ

毛髪用薬(発毛, 養毛, ふけ, かゆみ止め用薬等)

製品群No. 60

資料4-39

リスクの程度 の評価	A 薬理作用		B 相互作用		C' 重篤ではないが、注意すべき副作用のおそれ		D 蓋用のおそれ		E 患者背景(既往歴、治療状況等)(重篤な副作用につながるおそれ)		F 効能・効果(症状の悪化につながるおそれ)		G 使用方法(誤使用のおそれ)		H スイッチ化等に伴う使用環境の変化		用法用量	効能効果
	評価の視点	薬理作用	相互作用		重篤な副作用のおそれ		薬理に基づく習慣性		適応禁忌		慎重投与(投与により障害の再発・悪化のおそれ)		使用方法(誤使用のおそれ)		スイッチ化等に伴う使用環境の変化			
			併用禁忌(他剤との併用により重大な問題が発生するおそれ)	併用注意	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの	薬理・毒性に基づくもの	特異体質・アレルギー等によるもの			症状の悪化につながるおそれ	適応対象の症状の判別に注意を要する(適応を誤るおそれ)	使用量に上限があるもの	過量使用・誤使用のおそれ	長期使用による健康被害のおそれ			
ビタミン成分ほか	パントテニール パントテニール 注射液	注射剤はあり パントテニール 注射液 生体内にとり入れられたパントテニールは、体内で容易に酸化されてパントテン酸となる。パントテン酸はさらにCoenzyme A (CoA) → アセチルCoA となって、TCA サイクルにおけるオキザロ酢酸のアセチル化、神経刺激伝達に不可欠であるアセチルコリンの生成、その他酢酸、芳香族アミン、グルコサミン、アミノ酸等体内重要物質のアセチル化に関与している。 ・パントテニールは健康ウサギの呼吸、循環系、腸運動にほとんど作用を示さないが、実験的に虫垂を切除したウサギの腸運動を亢進することが認められている。 ・Wistar系ラットを用いた試験において、非経口投与されたパントテニールの尿中排泄は、パントテン酸カルシウムと比較して緩徐であり、体内利用時間の延長が示唆されることが報告されている。								血友病の患者(出血時間を延長させるおそれ)	小児等				パントテン酸の欠乏または代謝障害には効果がないのに月余にわたって漫然と投与しない		パントテニールとして1回20~00mgを1日1~2回	パントテン酸欠乏症の予防及び治療
	パントテニールエチルエーテル	医療用にはなし																

③下記疾患のうち、パントテン酸の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合(下記疾患に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。)
・ストレプトマイシン及びカナマイシンによる副作用の予防及び治療
・接触皮膚炎、急性慢性湿疹
・術後腸管麻痺